

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402150		
法人名	有限会社高原		
事業所名	グループホームあすなろ		
所在地	長崎県雲仙市吾妻町馬場名277番地		
自己評価作成日	令和 1年 12月 16日	評価結果市町村受理日	令和2年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和2年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様ができるだけ落ち着いて暮らせるように またその人らしい暮らしができるように生活全般にわたって気配り、目配り、心配りを行ないながら支援することを心がけています。毎日、昼食前に嚙下体操を行い、経口にて食事が摂れるように支援しています。半年前からは、午後の時間には、脚力が少しでも維持できるよう、体操を取り入れました。今まで続けている音楽レクレーションでは、歌うことや歌を聴くこと、ピアノの音色を直に感じていただくことで良い刺激をうける環境づくりを行っています。又、外出できなくなりつつある現状ですが、ホームに居ながらも季節を感じて頂けるよう、行事や飾り付けなどにも心配りをしたり、プロで活躍されている各方面の方を招いて本物に触れて頂けるよう計画、実現しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは周囲に田畑が多くあり、一歩外に出ると近隣住民や田畑で作業する方と会話できる環境にある。平成30年4月に代表者が変わったことを機に業務内容の見直しや職員の休憩室を作るなど、職員にとって働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組んでおり、それによって入居者を尊重した良質な支援へと繋がっている。ホームでは以前から取り組んでいるピアノを用いた音楽療法や多目的ホールでのコンサート開催など、音に直接触れたり歌を歌ったりする機会を設け、入居者・家族・近隣住民へ癒しの場を提供している。職員は「穏やかに、いきいきと、自分らしく」というホーム理念のもと、入居者一人ひとりの「らしさ」を追求したより個性の高いケアの実践に取り組むとともに、職員の笑顔での挨拶が多く入居者の笑顔へと繋がっており、全体に明るい雰囲気が漂う温かみの感じられるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 クローバー棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の気持ちに寄り添い 生き生きと過ごして頂くよう理念を掲げ 職員全員で確認し取り組んでいる	ホーム開設時に全職員で話し合い決定した「穏やかに、いきいきと、自分らしく」の理念を職員が目にする場所へ掲示したり毎朝唱和したりすることで、周知を図っている。職員は入居者個人の「らしさ」を常に考えながらケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	三か月に一度近隣の美容室の訪問カットに来て頂いている。散歩に出かけた際は挨拶を交わしたり話をしたりしている	ホームは自治会に未加入であるが、老人会や中学生の福祉体験の受け入れのほか、近隣衣料品店からの訪問販売や訪問理容があるなど地域と交流している。また、ホーム多目的ホールでのコンサート開催の折には地域の方の参加があるなど、地域との繋がりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の福祉体験学習で中学生を受入れ認知症の理解や接し方の学習を行った		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在のホームの状況報告を行い 意見を頂いている	運営推進会議は行政・民生委員・警察官・地域住民などの参加があり、ホーム活動状況や入居者の状態などについて報告するとともに、参加者より意見を求め、運営に活かしている。尚、入居者の個人情報保護の観点から会議への家族の参加について促してはいない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新の手続きなどの際にホームの実情などを話し連携を図るようにしている	行政とは運営推進会議や要介護認定更新の際に情報交換を行っている。また、研修助成金の手続きを行っており、島原地域広域市町村圏組合主催の研修会に積極的に参加することができている。ホームは行政との連携を図ることで入居者が安心して生活できる体制づくりに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰願がある利用者様が外に出ようとされる時は、止めずにさりげなく声掛け行い一緒に外について行くなど 拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年7月に入居者及び職員への暴力行為がある方に対し、職員会議での検討や家族の同意のもと自室から極力出ないよう対応した事例があり、主治医と相談した結果退去となっている。ホームでは身体拘束に関する指針の整備やマニュアルを策定しており、先述の事例の際にはケアの振り返りや今後の対応方法等について研修会を開催しており、身体拘束ゼロに向けた取り組みへと繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について回覧資料を配布し 虐待行為について学習し 防止に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い 理解を深めるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間を設けホームでの対応、体制、リスクなど詳しく説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に面会時や行事の時などに不安なことや不満、苦情がないかと常に伺うようにしている	職員は家族面会時にゆっくりと話を伺い、意見を聞き取るとともに運営に反映できるよう努めている。また、可能であれば自宅を訪問し個別で意見を伺う機会を設けており、家族とのより良い信頼関係構築に向けて取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案書、稟議書、会議などで意見や提案を聞いている	職員からの意見について、普段の業務の中だけではなく定期的にアンケートを実施し施設長と面談を行うことで、より多くの意見が運営に反映できるよう取り組んでいる。また、提案書や稟議書という形で意見を提案し、全ての職員で検討しながらより良いケアの実践に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、スタッフが向上心を持って仕事ができるよう常に声掛けを行ってくれている。休憩室を増築しリフレッシュすることも勧めてくれている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の講習や研修を受講できるようにしている。研修報告を会議で発表し知識などを身につけるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部から講師を招き研修を行ったり 障害者施設のスタッフの見学の受入を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の時に利用者様の不安に思っていることや困っていることを伺い支援していくように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の想いに耳を傾け 信頼関係を築いていくよう心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行いニーズを見極めサービスに繋げていくように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様から教わることも多く、敬い、できないところは、お手伝いをするという支えあえる関係性を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度のお便りを送付し ホームでの出来事や気づきなどをお知らせし関係が継続するようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人だったり 老人会の方など面会にこられた方とゆっくり和やかに過ごしていただけるように環境を整えている	ホームには入居前に入会していた老人会の方や友人の訪問があり、職員は入居者の馴染みの関係が継続できるよう支援している。また、訪問理容の定期訪問があるが、希望する方については行きつけの美容室や理髪店への外出支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	貼り絵などを共同で作成、一緒に仕上げる喜びを感じていただき利用者様同士の関係が良くなるように努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方のところにお見舞いに行ったり他の施設に入所された方の面会に行ったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話の中で希望や思いを感じるように努めている	職員は普段のケアの際や会話の中から入居者の要望や意向を聞き取り、入居者個々の「らしさ」を叶えるケアが実現できるよう支援に取り組んでいる。ミーティング等で情報共有するとともに、得た情報をもとにより良いケアの実践に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に生い立ちやこれまでの生活の状況などを詳しく伺っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のリズムを把握し記録してスタッフ全員で確認をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、モニタリングを全員で行い意見交換を行っている	ホームでは概ね3か月に1回入居者の担当職員を中心に全職員でアセスメント及びモニタリングを行い、話し合っている。話し合った結果をもとに、より個別性の高い介護計画書を作成しており、職員は介護計画に基づくケアの実践に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分量、排泄、ご本人の言葉等 個人記録に記載し スタッフ間で共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	清潔保持のために入浴日以外に入浴したり利用者様の状況に合わせて臨機応変に対応している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問カット、訪問販売等 利用して楽しみを持って頂けるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけの病院に通院し適切な医療を受けられるように支援している	ホームでは入居前からのかかりつけ医を継続することができ、職員による通院や定期受診の支援を行っている。場合によっては家族にも対応してもらっている。入居者の急変時には近隣のホーム協力医にて対応してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を受け 相談、対応などアドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は病院へお見舞いに行き 病状の経過を尋ね情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階を追ってご家族と話し合い ホームでの出来る限りの支援を行うように努めているが終末期の段階での支援は難しい状態である	現段階におけるホームでの終末期支援が困難であるため、あらかじめホームでできることについて入居前に入居者・家族へ説明し、同意の上での入居となっている。週1回ホーム提携医からの訪問看護にて体調確認を行っており、入居者の体調管理に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応、AEDの勉強会を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防訓練を年に2回行っている 外部より講師を招き災害時の研修を行った	ホームでは年2回の避難訓練に加え、全職員対象によるAED取り扱いの訓練を行っている。昨年7月の豪雨の際には避難準備や施設長自ら避難場所の下見を行っており、この経験を写真などの記録に残すとともに、後日振り返りの研修会を行い、有事に備えている。現在、近隣住民や地域消防団等との協力体制がない現状にあるが、今後避難訓練にも参加してもらうことで協力体制が構築できるよう検討しているところである。	緊急の際に持ち出す書類として入居者情報一覧表を準備しているが、処方薬の情報や入居者の身体状況等の記載がなかったため、どのような福祉用具を普段使用しているかといった情報も付記することが望ましい。入居者が避難先でも不安なく過ごせるよう更なる検討・工夫に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の気持ちに寄り添い配慮ある言葉かけを行うよう心がけている	職員は入居者の希望を尊重しながら周囲にも配慮した声掛けを心掛けている。転倒転落等の恐れのある入居者の安全確保のために夜間居室ドアを開けておく場合、入居者本人及び家族へ説明し同意のもと対応している。	ホームで準備しているポータブルトイレは家具調であるものの、本人持ち込みの物については家具調でないこともあるため、外部から一目でトイレと分からないような工夫(布で覆う、パーテーションを立てるなど)が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の言葉に耳を傾け できる限り希望に添えるように対応したり自己決定できるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りご本人の希望を優先し携わるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分が着たい洋服を選んで頂いたり 美容室へ出かけ毛染めをされたり その人らしい身だしなみができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に会話しながら食事をしたり できられる方には 下ごしらえや後片付けを一緒にしたりしている	食事の準備の際、職員は可能な方には料理の下ごしらえをしてもらうなど、入居者の残存機能保持に努めている。また、七夕やひな祭り、正月などには行事食、入居者の誕生日にはケーキを準備するなど、入居者に食事を通して季節を感じてもらえるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の把握を行い 食事量が少ない方には栄養補助食品を提供して栄養確保の支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行って頂いている 支援が必要な方には介助を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を使用して排泄パターンを把握できる限りトイレにて排泄して頂くよう支援している	ホームでは排泄チェック表を活用し、日中はトイレへの誘導を行うことでオムツ使用を減らせるよう取り組んでいる。排泄の訴えの多い方についてもその都度対応しトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂っていただいたり 乳製品を提供して自然な排便があるように工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴で負担がある方は無理強いせず 抵抗がある方は安心感を持っていただくよう工夫しながら入浴支援を行っている	入浴は火・木・土の週3回を基本としているが、入居者の希望や体調を考慮するとともに、拒否のある方など柔軟に対応している。ホームでは季節に応じてしょうぶ湯やゆず湯を行うなど、入居者が入浴を楽しめる工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じてお昼寝をされたり 日中に活動や軽作業を行っていただいたりして安眠されるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、看護師、薬剤師と連携して服薬支援を行っている 投薬の変更があれば申し送り確認を行うようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯量みや食事の下膳などできられる方に協力をお願いしている 花壇の草取りを気にされる方はスタッフと一緒に草取りをして 個々の活力が発揮できるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が暖かい日は日光浴を行いおやつを食べたり 散歩をしたり また家族と外出をされたりしている	ホームでは気候の良い時にはホーム周辺を散歩したり外に出ておやつを食べたりして入居者の気分転換を図っており、季節によっては花見やドライブなどの外出支援も行っている。また、家族協力のもとで外出する際には安心して外出できるよう助言などを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は持っておられないが必要なものがあれば職員が購入するようにしている 管理は施設で行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の取次ぎをおこなっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり 空調管理に留意したり居心地よく過ごしていただくよう工夫している	ホーム共用空間は冷暖房や加湿器使用により温度・湿度管理を行うことで快適な空間となっている。職員は毎日多目的ホールなどの清掃を行い清潔に保っている。清掃の際濡らした新聞紙をちぎってホウキで掃く光景を見て昔を懐かしむ入居者もいるため、継続して行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの思いに合わせて テーブル席を考え穏やかに過ごしていただけるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、使い慣れたものなどを持ってきていただき 安らいで過ごせるようにしている	入居前から使っていた家具を居室に持ち込んでもらい、入居者にとって快適な居住空間となるよう心掛けている。また、希望に応じてフローリングから畳への変更も可能としている。入居前には感染の危険性について説明し、入居時に加湿器を準備してもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動できるようにリビングの壁やトイレ内に手すりの設置、浴室にステッカーを貼り目印をしたり自立支援に努めている		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 さくら棟

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議の時にスタッフ全員で確認し、理念に基づいたケアを行うよう意識付けをおこなっている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	三ヶ月に一度、地域の美容室の方に訪問カットをお願いしている。近隣の洋品店の方に肌着などの訪問販売にきていただいている。市主催の美術展に利用者様と出かけて鑑賞を行った		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のさまざまな会議などに出席し認知症ケアの啓発に取り組むように努めている 中学校の福祉体験学習の為に学生の受入を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員の方 派出所の警察の方 市の職員に出席していただき 意見 情報を共有している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新の機会等に市町村担当者へ利用者の生活の状況などを話し協力関係を築いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊があっても鍵をかけず付き添う等 拘束を行わないというケアに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	回覧資料などを配布 スタッフが各々ケアについて振り返りを行い防止に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を行い、スタッフに周知を行なうも実際必要な利用者に至らない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明を行なうようにしている。利用料の説明、起こりうるリスクなど詳しく説明を行い同意を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに意見箱を設置して苦情などの受付を行っている。市の相談窓口など外部にも意見、苦情を表せる場があることをご家族に説明している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ提案書、稟議書などを活用して職員の要望や意見を聞くように心がけている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行ったり、勤務時間中にも気分転換できるように休憩室を作り向上心を持って働けるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	情報収集を行い、外部研修に受講できるよう支援している 研修報告はレポートを全職員で閲覧できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の障害者施設と交換研修やスタッフ研修を行い質の向上に努めた		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談で生活状況を把握し思いや不安を受け止め 困っていることは何かを知るよう心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向を聞き 施設としてどのような対応ができるのか 話し合い関係性を築くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に本人やご家族の思いを聞きホームとして支援できることは何かを考え対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する介護されるといった関係ではなく 共に支えあうという関係性を築くようにしている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回のお便りを送り 日頃の状態や暮らしの出来事や気づきをご家族と共有し一緒に支援していくという関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの行きつけの美容室へ出かけられたり交流が継続できるように支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく過ごす時間や会話など利用者同士の関係がうまくいくようにスタッフが間に入り支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られた方に会いに行き 出会えたことに感謝し関係性を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で話を繰り返すことで把握に努めている 意思疎通が困難な方はご家族からお話を聞いている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドを記入していただき 利用者の理解に繋げている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の意志を尊重しできることを強要することなく安全に生活していただけるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員でアセスメント、意見交換、モニタリングを行なっている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや状態変化など個別記録に記載しスタッフ間で共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望があれば臨機応変に対応するようにしている(買い物、病院受診など)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して生活できるよう警察、民生委員と意見交換する機会がある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医での受診通院をおこなっている ご家族と協力し通院介助を行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し健康管理や支援などの相談、助言、対応をおこなってもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者、本人、ご家族と退院に向けて相談、話し合いを行ない支援を行なっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでできる限りの支援を行っているが重度化や終末期に対しての支援は難しい状態である。ホームの方向性をご家族様と密に話し合いご理解を頂いている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や緊急時の対応について勉強会を開き学習している マニュアル作成し慌てず行動できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署の協力をいただき避難訓練、消火器の使い方などの訓練を行なっている 災害対策の研修を行い慌てず避難誘導ができるように取り組んでいる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない言葉かけや対応に心がけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけや会話などで本人の関心、嗜好を汲み取り本人が自分で選択できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	臥床して身体を休めたり 買い物に同行したりとか 一人ひとりの体調やペースに合わせて過ごされている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の馴染みの美容室でカットや毛染めをして頂けるように支援している(ご家族の協力あり)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホワイトボードに一日の昼食と夕食のメニューを記入し 喜びや楽しみを持っていただくようにしている 入居者様とスタッフと同じテーブルで楽しく食事をするようにしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量、飲水量を把握 確認し 食事がとれない状態の方には介助や補助食品などの提供を行なう		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の状況に応じ自分で口腔ケアを行なっていたり できない方には介助を行っている 嚥下体操にて誤嚥予防に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	言葉かけに注意しながらトイレにて排泄していただくよう時間をみて誘導している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ペットボトルにお茶を入れ水分補給を行っていただいたり 乳製品を提供して便秘の予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に関しては施設側が決めた曜日、時間にあわせていただいている状況ではあるが拒否がある方や不潔になったりした場合は臨機応変に対応している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーションなど行い活動を促し夜に気持ちよく入眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	きちんと服薬できたか確認行なうようにしている スタッフが薬を把握するようにしている 薬剤師と連携し服薬支援を行なっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみなどお願いできそうな軽作業を頼み 感謝の言葉を伝えるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は、日光浴を行い 屋外でおやつを食べるなどの支援を行なっている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の安心感の為 少額の所持金を持っていたいと言われる方は、ご本人や他の入居者さまの物とられ妄想につながる場合もある事をご家族にも了承、合意をいただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持って来られている方は、ご家族と決めた使用時間を守っていただくようにしている 会話が他の入居者様に聞こえないよう配慮している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり 空調管理を行ったり 居心地の良い空間づくりに努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を設置して 入居者様同士が雑談したり 外の景色を眺めたり居心地の良い居場所づくりを心がけている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際 ご自宅で使用されていた筆筒などを持参していただいたり その人らしい居室づくりの工夫を行なっている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体の状態の変化に合わせ環境整備に努めている(ベッドの配置、PWCの配置など)		